

きらり



☆第 1 回人権・同和教育ホームルーム活動



1 年 より良い人間関係をつくろう

P T A 人権教育部の活動計画

竹林整備	年 3 回
西条市人権・同和教育講座(～12 月)	5 月
いじめ問題対策委員会	7 月
体育大会販売	9 月
きらり 58 号の発行	9 月
小松高祭販売	11 月
人権・同和教育ホームルーム活動公開授業	11 月
ウォークラリー大会補助	11 月
きらり 59 号の発行	2 月



2 年 人権の歴史 I



3 年 確かな進路保障のために

○『人権の視点からのアクティブバイスタンダード』《西条市人権・同和教育講座① 5 月 28 日》

～(株)SISTERS 代表取締役・鈴木 彩衣音さん～

○講座では、相手と同じ気持ちになることだけでなく、「自分とは考えが違うけれど、相手はこう感じているのだな」と客観的に理解する「認知的共感」の重要性が語られました。これは、子どもたちが多様な友達と関わるうえでも大切な力だと感じます。また、私たちの沈黙が、実は差別を認めることにつながっていたという指摘は、ハッとさせられるものでした。隣にいる人の笑顔を守るために、自分にできることで積極的に介入することが大切であると、改めて感じました。

○「差別かな？」と思う場面に遭遇しても、見て見ぬふりをしたり、聞き流したりすることはありませんか？しかし、それでは差別はなくなり、無言であることは差別の加害者にとって強化となり、同意とみなされることがあります。そこから一歩踏み出し、被害者へ共感することで、沈黙の傍観者から行動する傍観者となることができます。「大丈夫？」「何かできることはある？」など声をかけ、サポートをする姿勢を見せることで、差別を容認しないコミュニティができると感じました。

○『部落問題』《西条市人権・同和教育講座② 7月23日》

～氷見交友会館館長・曾我部 研二さん～

○家族であっても他人であっても、立場の違いはあれど、そこに身分の上下はなく、「皆対等である」ということを意識することで、人としての尊厳を守り、差別する気持ちもなくなっていくと思います。講演会で「差別の起こり」をお話しされていました。もし、あの時代身分制度がなかったら…どんな日本になっていたんだろう。人権・同和教育について、これからも学び続けていきたいと改めて思いました。



○正しい情報を知ることは、部落問題にかかる霧を晴らし、人間関係のこじれを防ぐことにもつながると感じます。子どもにも人を出身や立場で判断せず、一人の人間として尊重する、強くて清い心を持ってほしいと思います。そのためにも、まずは私自身が正しい知識を学び、子どもと話す機会をつくるとともに、生徒たちにも今日のような学びを広げていく必要があると感じました。

☆人権・同和教育講演会（「今 輝くために」）



熱心に耳を傾けていました。

☆人権紙芝居（清風会道前育成園）



興味深く紙芝居に見入っていました。

講演会の感想

- 私は今まで、同和教育は差別をする人をこれ以上増やさないために、差別をする人がいれば止められるようにするために、つまり周りのために学習していると思っていた。しかし、講師の方の「自分を変えるために」という言葉で、人権意識を変えられたと思う。
- 「今の自分には関係ない」と思いながら学んでも何も身につかないし、誰かを思うこともできない、そんなのは自分は嫌です。何事も、他人事ではなく自分事として捉えてこそ、より良い解決方法を導き出せるのかもしれない。

人権紙芝居の感想

- 今回の講話を聞いて、障がいがある方について理解を深めることができた。特に、施設利用者の方が、さまざまな活動や行事に参加し、生き生きと生活を送っていることが印象に残った。また、ノーマライゼーションという考え方を知り、誰もが安心して暮らすことのできる社会の大切さを学んだ。一人一人の個性や違いを認め合い、困っている人に手を差し伸べることのできる人になりたいと思った。

☆いじめ問題対策委員会



生徒の様子について意見交換しました。

☆現地研修会（氷見交友会館）



林田哲雄さんについて学びました。

